

平成28年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

豊かな心をはぐむ教育の推進

1 一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。

2 友達への思いやり

子どもは、友だちとなかよくできていると思いますか。

3 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)

1 学校全体で日ごろから、思いやりを育む教育を推進し児童生徒を尊重しているが、保護者は、もっと尊重してほしいと期待している。さらに、ひとりひとりを大切にしたい教育を進め、互いの意思疎通を十分に図っていく必要がある。2 子どもたちはトラブルを経験することで友達と仲良くすることを学び、成長していく。また、職員は、子どもたちのトラブルに絶えず直面するが、子どもたち本人や保護者には、解決した後のさわやかな気持ちで伝わっているようだ。さらに、思いやりの心を育てたい。3 登校時の挨拶運動、授業等での気持のよい授業、朝・昼・夕など全校生で取り組んでいる。また、道徳の時間は年間35時間以上の時数を確保し、保護者に案内する授業参観でも年間1回は、実施するようにしている。「私たちの道徳」をより活用し、保護者の役割を担いたい。

確かな学力を育む教育の推進

4 意欲的な学習態度

子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。

5 学力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。

6 ICT活用

先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。

どちらも児童、保護者の「そう思う」の評価が教職員を上回っている。学習指導に対する教職員の真摯な態度が、児童や保護者に評価されているのであろう。反面、「そう思わない」または「無回答」の評価が保護者にあることも念頭に置かねばならない。1 時期1 時間の授業を大切にするために、身に付けたい力を明らかにし、それを身に付けるための具体的な手段で実践する教材研究により、「そう思う」が増えている。子どもは、先生方を常に考え、子どもが「わかる」「楽しい」と実感できるように、子どもの関心の授業づくりに努めたいようにする。

機器設備の充実からも、様々な場面でICT活用が効果を上げてきているようである。保護者の無回答の増加から、授業の中でより効果的に活用したり折に折に振り取りの様子を紹介したりしながら、保護者への啓発を充実させたい。

健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり

子どもは、好き嫌いなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。

8 児童生徒理解

先生方は、子どものよきを見つけて、子どもを理解しようとしていると思いますか。

9 いじめや問題への対応

学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。

保護者・児童と教職員では、意識の差が見られる。震災直後は、児童において、眠れない・食べられないなどの傾向が強かったが、現在は回復傾向にある。今後も、保護だより等の発信を通して、保護者にも学校での実態や取組を知らせ、より健康的な生活を送れるよう指導の充実を図りたい。

保護者との連携を深め、児童・保護者の願いを的確にとらえることが大切である。日頃より共感的理解を心がけ、児童の良さを見つけてほめるようにしている。

いじめや問題行動等については、生徒指導担当に報告し、管理職に報告の上、対応している。場合によっては生徒指導部会を開いている。言いたくても言葉ない児童もいるので、日ごろの様子を観察を大事にしている。

いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

10 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

11 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

12 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

前年度の評価と比べると、教職員自身の評価は高くなっており先生方の支援に対する意識が高まり積極的な支援がなされていることがわかった。しかし保護者の評価はほとんど変わらないのでその変化は保護者にはあまり伝わっていないようである。今後その変化を保護者に伝えていく必要があると思う。

昨年と比べると、3者ともに高評価が出ている。これは、分離により児童数が減ったことや、職員による朝夕の登下校指導や防犯訓練などの取り組みがしっかり伝わっているからだとと思われる。今後は、校内外での事故や怪我を減らすようにさらに指導を図りたい。

新しい校舎・施設であり、設計上D面での配慮もなされている学校である。保護者の評価が教職員より低いのは、保護者に周知徹底していないからとも考えられる。安全点検や教職員の日々の点検等で、修理が必要な場合は事務室の教職員よりすぐ連絡・報告もなされている。

家庭・地域社会との連携強化

13 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすくしていると思いますか。

14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

学校だより・学級通信等を活用し、教育方針や教育目標などを知らせることに努めている。学校のホームページを更に充実させると共に、丁寧な説明を心がけていきたい。

教職員と保護者との認識のずれがある。このことは保護者様の学校や地域の教育力に対する期待の表れである。お互いの信頼関係を大切にしたい。子どもたちのために一層協力して教育活動を進めていきたい。

本校の教育

15 心豊かな子ども

子どもは、誰に対しても「自分から、元気に、笑顔で、あいさつができていますか。

16 自ら学び続ける子ども

子どもは、家庭学習に進んで取り組むことができていると思いますか。

17 たくましい子ども

子どもは、「早寝・早起き・しっかり朝食」が実践できていると思いますか。

15 あいさつリレーやあいさつ100の具体的な目標を定めて実践することで、児童の評価は約70パーセントを超えたと考える。児童に比べ、教職員が低いのは、目撃している場面でのあいさつが、まだできていないと感じられるから、また、伝える声がかさかすという理由があげられた。あいさつリレーの取組などあいさつ100の取組が、一日の生活の中でも生かすようにクラスでの具体的な目標を児童と立て、実践し、評価していく必要がある。また、スキルアップを図るあいさつ100の取組も必要である。

16 89%の児童が「大変よくできた」「できた」と答えている。教職員、保護者とも約80%の評価があった。日々の家庭学習への取組は定着しつつある。ただし、学習時間や内容については個人差があり、提出が難しく学校の休み時間などに個別に対応している現状にある。自主学習ノートの使い方や丁寧な学習の仕方は、見本を示したりノートとの交流会などを行う等の指導が必要である。熊本市学力検査の分析を行う時間を設け、これまで以上に生活リズムの定着を指導する必要がある。児童の規則正しい生活リズムの定着を次年度も図りたい。継続して実践することで、児童の体力向上も図られたが、認め・ほめ・励ます活動を取り入れることにより、互いをよく観察し、よりよい人間関係が構築されることにつながった。

来年度の具体的な取り組みについて

本校教育目標の3つに即してより具体的な方針を提示することができたことにより、児童・保護者・教職員ともに明確な目標をもとに連携して取り組むことができた。

学習面では、全員参加のわかる授業づくりに今後進め、教材研究を続けていくとともに、学びノートを中心とした学力充実と支援が必要な状況の児童の生活習慣の確立と学習支援、そして個に応じた学習の更なる徹底を図っていく。

地域の声からは、児童のあいさつはほめていただくことが多いが、校内でのアンケート調査では「よくできている」の数値が上がっていない状況にある。生徒指導部や授業での取り組みに加え、PTAや幼稚園・小中連携と地域の諸団体と連携を図り、更に基本的な生活習慣の定着を図っていく。

小中連携で4つの共通実践項目を設定し取り組んでいる。今後も家庭学習の充実を図りながら、個に応じたきめ細かな指導の工夫改善に努めたい。体力向上として、年間指導計画を見直し1日1時間を取り組む機会を設けたりして、楽しみながら児童の体力向上に取り組んだ結果、児童の体力面の向上が特に女子の部で見られてきた。今後は、運動場の改修工事が完了するので、これまで以上に運動場や体育館の利用がしやすくなるので、さらに魅力的な取り組みにしていきたい。

学校関係者評価

授業参観に参加して感じていることは、先生たちがわかりやすい授業づくりへの取組がすばらしく、子どもたちも楽しく授業に参加していた。朝の早い時間から登校する子どもたちの様子を見ても、運動場で遊ぶ姿が多く、子どもたちが運動好きであることがわかる。

校訓の「自主・協働・感謝」は、地域への思いや子どもたちへの思いのこもったものでよかった。高学年の子どもたちが頑張っていることを校風としてうまくつないでいくことが大切であると感じている。

育成クラブに通っている子どもは、学校や学級のこと、先生たちのことをよく話してくれている。学校が好きな様子が見え始める。

運動会や音楽会など、前年までの児童数が半分になったことで、時間的にも空間的にもゆとりがあり、子どもたちがのびのびと活動してすばしかった。熊本地産があり、陸田小学校に避難してこれた多くの方々が言われていたのは、「すばらしい学校が開校して本当によかった」という感謝の言葉だった。学校評価のデータで教職員自身の評価が低いのは、先生たちが厳しい自己反省を含めた数値である。数値を上げることは大変であるが、先生たちの力量の見せ所でもある。

子どもたちの安全面の確保は、地域全体の課題である。安心して通うことができるような通学路のために、自治会でも支えていきたい。